

令和6年度
多古町歴史講座

◆第4回講座◆

歴史資料を後世に残す
～大規模開発のなかで～

成田空港の拡張に伴い移転が進む一鍬田地区を中心に、「多古町史」の研究成果から地域の姿を考えます。また、移転が進む中で、地域に残る古文書などの歴史資料を守ってゆくにはどのような取り組みが必要なのかお話しします。

講師：千葉経済大学地域経済博物館学芸員
菅谷 祐輔 先生

長野大学教授
相川 陽一 先生

2025年2月15日(土)

多古町コミュニティプラザ文化ホール

開場13:30 開演14:00

入場無料

主催 多古町教育委員会

お問合せ) 多古町コミュニティプラザ 0479-76-7811

千葉経済大学地域経済博物館学芸員

菅谷 祐輔 先生

成田空港の機能強化により空港用地となる「一鍬田」地区は、今まさに移転の最中となっています。また、新滑走路建設によって騒音直下となる多古町「東條地区」は、景観が今後大幅に変わることが予測されます。以上をふまえて一鍬田地区を中心に、多古町史の研究成果から、地域の姿をみてみたいと思います。

長野大学教授

相川 陽一 先生

成田空港の拡張に伴い、多くの家や地区が移転する動きとなっています。こうした中で、古文書、近現代や戦後の資料、様々な建物や石造物などの行方が気になります。一見すると紙くずやごみのように見えるものも、家族や地域の歴史を伝える大切な資料ということがあります。こうした資料は、家や納屋、集会所、お寺、神社などに置かれています。資料を守るため、地区、家庭、行政で、どのような取り組みが必要なのか、地域のみならずまといっしょに考えてみたいと思います。